

国際広報メディア専攻

平成 28 年度
前 期

日本語論述

13:30～15:30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
3. 解答用紙（25 字×40 行＝1000 字）は、2 枚ある。
4. 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1～4のうちから1題を選択し、1600～2000字の日本語（横書き）で解答しなさい。

【問題1】

現代の社会において、デマや流言はコミュニケーションの一種態としてどのように考えることができるだろうか。この点について、①デマや流言はいかなる条件下で発生しやすいのか、また、②そのデマや流言がもつ社会的な意義（肯定的な面と否定的な面の双方）は何か、の二点に分けて論じなさい。

なお「デマ」という言葉には一般に、政治的な目的をもってなされる「事実と反する扇動的な宣伝」と、単なる「根拠のない噂話」の二つの意味がある（『広辞苑』第六版）。ここでは「デマ」や「流言」を後者の意味で用いることとする。

【問題2】

2015年1月にフランスで起きた「シャルリー・エブド襲撃事件」の後、問題となった週刊紙の特別号に記載されたイスラム教預言者ムハンマドの風刺画（預言者と思われる人物が「私はシャルリー」と書かれた紙を手を持った姿）を掲載するか否かにおいて日本の新聞社の対応が分かれた。①掲載した新聞、掲載を見送った新聞はそれぞれどのような理由でその判断を行ったと考えられるか。また、②自分がもし新聞を発行する側であった場合、掲載する、しないのどちらの判断を支持するか。明確な理由とともに二点について述べなさい。

【問題3】

近年、アジア諸国から多くの観光客が北海道を来訪している。この北海道への観光客をさらに増加させる広報戦略を立案したいと思う。この立案においては、どのような点に注意する必要があると思われるか。単なるアイデアだけではなく、コミュニケーションの機能やアクターを意識しながら、具体的な実例を挙げ、その立案の注意点を論じなさい。

【問題4】

近年、北海道内でアイヌ語講座が様々な場所で開講されている。その一方で、すでに「死滅した言語」を学ぶ価値があるのかという疑問を呈する人もいる。今日行なわれているアイヌ語講座に関して、あなたの意見を書きなさい。